

【樹木の部屋】

トウジュロ（ヤシ科シュロ属 *Trachycarpus wagnerianus*）

和名：トウジュロ（唐棕櫚） **別名**：オジュロ **英名**：Chinese Windmill Palm

ヤシ目 常緑高木 **原産地**：中国

花言葉：勝利、不変の友情、祝賀、戦勝、優勝の意 **花色**：クリーム



← 写真-1 トウジュロの樹姿

撮影日：2023年5月30日

撮影場所：米原市醒ヶ井養鱒場にて

撮影者：M さん



→ 写真-2 トウジュロの幹・葉・花

撮影日：2023年5月30日

撮影場所：米原市

醒ヶ井養鱒場にて

撮影者：M さん

米原市の JR 醒ヶ井駅から車で 10 分ほどの場所にある醒ヶ井養鱒場で見かけました。

トウジュロは中国原産の帰化植物で、昨今ワジュロと同種とされているそうですが、造園の世界では価値が大きく異なるので、この系統の呼び名（トウジュロ）自体は

今後も残るそうです。

温暖で、排水良好な土地を好み、乾湿、陰陽の土地条件を選ばず、耐潮性も併せ持つ強健な樹種です。生育は遅く、管理が少なくて済むため、手間がかからないそうです。

幹は円柱状で、分子せず垂直に伸び、その先端に、春に、肉穂花序に黄色い粒状の花を集合させて咲かせます。秋には果実が成り、黒熟します。雌雄異株です。

幹には暗褐色の繊維「シュロ皮」が密生します。シュロ皮は伸縮性に富み、加工したものがタワシ、園芸用のシュロ縄、蓑、刷毛、敷物等に使われています。皮の中には意外にしっかりとした幹(木ではないので茎が正しい)があり、この茎は程良い硬さがあるため、お寺の鐘を突く「撞木(鐘突き棒)」に使われます。樹皮の毛は火が付き易いので、要注意だそうです。

幹の先端に、扇状に断面が三角形の葉柄を広げて数十枚の深く裂けた全縁の葉をつけます。丈夫で持ちやすく、切除した葉をそのまま箒として使うことができます。

ワジュロよりも樹高・葉面が小さく、組織が固いため葉の先端が下垂しないのが特徴です。葉が上方へ切立ってすっきりとした印象を持つため、庭木としてはトウジュロの方が勝っているそうです。かつては鉢植え用の観葉植物としても育てられることがあったそうですが、現在では鉢植えとしての価値は大幅に減少し、衰退しているそうです。造園上では、樹皮の繊維層を地際から全て残した物が良い物とされるそうです。